

令和4年1月28日

まちづくり委員会資料

全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子の策定
に伴うパブリックコメントの実施結果について

建設緑政局

全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子の策定に伴う パブリックコメントの実施結果について

1 概要

本市では、これまでの100年を振り返り、次の100年により豊かな環境をつないでいくきっかけとなり、全国へ川崎のみどりを発信するため、市制100周年を迎える令和6年度の全国都市緑化フェアの開催に向け、取り組んでおります。

この度、かわさきフェアを契機としたみどりのまちづくりに向けた取組やかわさきフェアの開催に関する行催事等計画を示した「全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子（案）」について、市民の皆様から御意見を募集いたしました。

その結果、16通（意見総数24件）の御意見をいただきましたので、御意見の内容とそれに対する市の考え方を次のとおり公表いたします。

2 意見募集の概要

題名	「全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子（案）」に関する意見募集
意見の募集期間	令和3年11月22日（月）から令和3年12月21日（火）まで
意見の提出方法	電子メール、FAX、郵送、持参
意見の周知方法	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページへの掲載 ・市政だよりへの掲載 ・かわさき情報プラザ（川崎市役所第3庁舎2階）での閲覧 ・各区役所市政資料コーナーでの閲覧 ・市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課での閲覧 ・建設緑政局緑政部緑化フェア推進担当での閲覧
結果の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページへの掲載 ・かわさき情報プラザ（川崎市役所第3庁舎2階）での閲覧 ・各区役所市政資料コーナーでの閲覧 ・市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課での閲覧 ・建設緑政局緑政部緑化フェア推進担当での閲覧

3 結果の概要

意見提出数（意見件数）	16通（24件）
電子メール	15通（21件）
FAX	1通（3件）
郵送	0通（0件）
持参	0通（0件）

4 意見の概要と対応

「全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子（案）」に対して、かわさきフェアに関する具体的な取組や開催会場に関する御意見などが寄せられました。

生物多様性の保全や観光分野との連携に関する御意見が寄せられたことを踏まえ、表現など一部加筆修正をするとともに、所要の整備を行った上で、「全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子」を策定しました。

(1) 意見に対する本市の考え方の区分の説明

- A：意見を踏まえ、案を加筆・修正するもの
- B：案の趣旨に沿った意見であり、意見を踏まえ、取組を推進するもの
- C：意見を踏まえ、今後取組を進める中で参考とするもの
- D：案に対する質問・要望の意見であり、案の内容を説明・確認するもの
- E：その他（今回の意見募集の趣旨・範囲と異なる意見）

(2) 意見の件数と対応区分

項目	A	B	C	D	E	計
1 「第2章 かわさきフェアを契機としたみどりのまちづくりに向けた取組」に関する事	1	1	0	1	0	3
2 「第3章 全国都市緑化かわさきフェア行催事等計画（骨子）」に関する事	1	5	12	1	0	19
3 その他の意見	0	0	0	0	2	2
合計	2	6	12	2	2	24

(3) 意見の概要と意見に対する本市の考え方

No.	意見の趣旨	意見に対する本市の考え方	区分
1 「第2章 かわさきフェアを契機としたみどりのまちづくりに向けた取組」に関すること (3件)			
1	<p>地域の遺伝子レベルでの生物多様性の攪乱を招かないような緑化を推進する計画としてほしい。「緑化」という行為には、在来の生物多様性を保全するという視点が必要不可欠である。</p> <p>基本計画骨子(案)では、そのような方針がほとんど見られない。緑化という行為には、生物多様性を攪乱してしまう危険性が少なからずあり、そのため、遺伝子レベルでの生物多様性保全も視野に入れた形で、「全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子」を策定するよう、切に願う。</p>	<p>生物多様性の保全につきましては、豊かな自然がもたらす生物多様性を日常の中で捉えることが重要であるとともに、地域特性に合わない緑化は、地域本来の自然環境や文化、個性を失うことにもつながりかねないと認識しております。かわさきフェアにおいても、いただいた御意見を踏まえて、P15の【基本理念Ⅰ】—【課題認識】及び【取組方針】、P17の【基本理念Ⅲ】—【課題認識】に、生物多様性の保全に関する事項を、それぞれ追記いたしました。</p>	A
2	<p>市民が接するみどりは、公園が多いと思う。次の100年に向けて、緑豊かで手の行き届いた公園緑地にしてほしい。</p>	<p>公園緑地につきましては、P15の取組方針Ⅰに示すとおり、みんなが居心地よく活動できる空間の創出や、みどりの多様な効果が十分に発揮された質の高いみどりを取り入れる仕掛けづくりに取り組んでまいります。</p> <p>次の100年も、川崎に住みたい、暮らしたいと思われるよう、みどりの適正な保全、創出、育成及び活用を進めてまいります。</p>	B
3	<p>川崎駅周辺から富士見公園までの回遊性向上が示唆されているが、当該エリアにおいて懸念されるのは、落書きや歩道・中央分離帯の植栽帯へのゴミのポイ捨て、投棄により、街の美観が損なわれていることである。</p> <p>2024年に向けて、今から、落書きやゴミのポイ捨てを許さない強固な風土を構築していくため、一過性ではない、強力な施策や新たな取組を、全市をあげて展開していくことが必要である。</p>	<p>本市では、かわさきフェアの開催を契機として、誰もが暮らしやすく住み続けたいまちの実現を目指して、フェア開催前から、フェア開催以降につながる様々な取組を展開してきたと考えております。</p> <p>次の100年に向けて、川崎らしくより豊かな環境をつないでいけるよう、みどりを通じた、地域の課題解決に向けた取組を推進してまいります。</p>	D

2 「第3章 全国都市緑化かわさきフェア開催事等計画（骨子）」に関すること（19件）			
1	<p>緑化フェアでは、市外からも多くの方々が訪問されると思う。コア会場の集客だけでなく、緑化フェアをきっかけとして、市内の様々なみどりの名所にも足を伸ばしてもらい、川崎の良さを知ってもらう取組が大切ではないか。市内の観光資源を広く認知してもらうことは、地域愛を醸成する機会にもなるはずなので、事業計画の展開イメージに観光を位置付けるなど、具体的な取組内容が検討されることを期待する。</p>	<p>かわさきフェアにおける観光分野の取組につきましては、P18の【基本方針】エに示すとおり、これまで培ってきた本市の多様な強みを活かして、川崎のみどりが持つ多様なポテンシャルを発信するとともに、P42の(2)出展展示に示すとおり、本市の多様な地域資源を活かして、環境、教育、文化、歴史などの様々な分野と連携して、川崎の多様性あふれる魅力や強みを感じられる機会を創出していきたいと考えております。</p> <p>市民の皆様へ、よりわかりやすい表現とするため、御意見を踏まえて、P18の【基本方針】エに「観光資源」を、P42の(2)出展展示—【展開イメージ】に「観光」を、それぞれ追記いたしました。</p>	A
2	<p>全国都市緑化かわさきフェア開催誘致にご尽力いただきありがとうございます。緑化フェアは、これまで全国各地の主要都市で開催され、緑化啓蒙、緑化推進のみならず、それぞれの都市の魅力をアピールする場でもあると思っている。川崎市でも、訪れる方にまちの魅力も感じてもらえたらいいと思う。基本計画骨子を拝読し、いろいろな手法での開催に夢が膨らんでいる。開催に向けての準備は、これからが大変だと思うが、一市民として応援している。川崎にしかできない、これまでにない緑化フェアが実現、成功し、その後の緑を活かしたまちづくりへの意識高揚ができることを祈念している。</p>	<p>かわさきフェアでは、みどりが持つ多様なポテンシャルを効果的に活用し、これまで培ってきた川崎の強みや各地域の特色を活かしながら、「川崎らしいみどり」を全国に発信したいと考えております。</p>	B
3	<p>構想が具体的になってきて、特色のある緑化フェアになりそう。開催期間も、花の見頃にあわせて春と秋に開催されるので、きっと多くの方で盛り上がることでしょ。成功をお祈りしている。</p>		

4	「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」の活動について記載があったが、開催期間中に来店される飲食の食器などをリサイクル可能な素材にするなど、脱炭素に向けた新素材や最新技術を使った運営をすることで、「さすが川崎、最先端の技術を使っている」と来場者に感じていただけるのではないかと。	かわさきフェアにおける脱炭素の取組につきましては、P45の(8)飲食・物販に示すとおり、食品ロス対策や容器のリユース、リサイクルなどの取組を推進してまいります。また、P45の(7)交通輸送に示すとおり、温室効果ガスの抑制など環境負荷低減につながる交通輸送の展開を検討してまいります。	B
5	生田緑地については、向ヶ丘遊園跡地利用計画により設置される施設との相互連携や回遊性向上のための取組も行ってほしい。	生田緑地における回遊性向上につきましては、かわさきフェアの開催に向けて、周辺の各施設等と効果的な連携を図りながら取り組んでまいります。	B
6	各会場の最寄り駅から、無料送迎バスを出したほうが良いのではないかと。また、各会場内の移動手段として、レンタサイクル等を検討した方が良いのではないかと。	各会場への交通手段及び会場内の移動手段につきましては、P45の(7)交通輸送に示すとおり、公共交通機関の利用を前提としつつ、バス、電車、シェアリングサービス等の多様な交通手段と連携し、来場者の皆様の円滑な交通手段、移動手段の確保を検討してまいります。	B
7	広報宣伝について、開催決定後、市民や市内大手企業、各活動団体に対して、すぐに周知をしてほしい。開催までに市民が関心を寄せるまでの時間があるといい。また、小中高校生に対しては、学校に周知を手伝ってもらいたいと思いたい。	広報宣伝につきましては、P44の(5)広報宣伝に示すとおり、地域の様々な情報媒体やSNS等の利用など、市民、企業、各種団体などに幅広く浸透させるため、フェア開催前から、戦略的な広報宣伝を実施していきたいと考えております。	C
8	市のイベントが、気づいたら終わっていたことがたまにあるので、ポスターをいろんな場所に貼るなどしてほしい。	具体的な広報宣伝の方法等につきましては、いただいた御意見を参考に検討を進めてまいります。	

9	<p>生田緑地の中にあるばら苑は、川崎市が誇るスポットライト的存在と認識している。開催時期の令和6年10月中旬～11月上旬は、秋の一般公開時期と重なっているが、生田緑地ばら苑には、様々な問題が累積しており、本格的な整備がまだ行われていない状況である。</p> <p>昨年度、生田緑地マネジメント会議から川崎市に提出された提言書を参考に、フェアに向けた必要な整備をお願いする。ばら苑整備が完成し、フェアで多くの市民に楽しんでもらえれば、まさにレガシーとなるのではないかと。</p>	<p>生田緑地では、P33の生田緑地の取組イメージに示すとおり、ばら苑などの豊かな自然環境や、歴史・文化・芸術といった魅力に触れ、感じることでできるプログラムを展開していきたいと考えております。</p> <p>ばら苑の施設改修につきましては、いただいた御意見を参考に検討を進めてまいります。</p>	C
10	<p>生田緑地では、春に桜、秋にばら苑のバラが美しい。ばら苑施設も、かわさきフェアの会場として、使いやすいものに更新されると想像しているが、最近、国産木材を使った耐震耐火に優れたビルが建てられているので、そのような技術も紹介いただき、森の機能や脱炭素について、身近に感じる機会になればと期待している。</p>		
11	<p>開催に向けた準備について、樹木・草花等、数年をかけてその景観美を造り上げるものもあるかと思う。これから約3年の準備期間でそれらを進めていくことが大事だと思う。</p>	<p>かわさきフェアの開催に向けた樹木・草花等の事前準備につきましては、市内の各会場における取組の検討とあわせて、フェア開催前から、必要な準備を進めていきたいと考えております。</p> <p>具体的な緑化や景観形成の方法につきましては、いただいた御意見を参考に検討を進めてまいります。</p>	C
12	<p>既存の街路樹や公園緑地についても、それに相応しい樹形や管理方法で準備をしておくことも重要だと思う。</p>		
13	<p>街角の緑は、構造物と違い、完成が工事終了時にならない。緑化フェアまでの3年間で、計画的に会場及び駅周辺の緑化をしていかなければいけないと思う。緑化フェアのための予算を確保してやらないと市民がよいと思う緑化はつukれないと思う。</p>		

14	<p>飲食・物販について、「みどり」と聞いて興味がない人も、「食べ物、飲み物」と聞くと行ってみようかなと思う人が多いのではないかと。会場によっては、土・日・祝日等は、みどりの傍でこの部分を盛り上げてよいかと思う。</p>	<p>飲食・物販につきましては、P45の(8)飲食・物販に示すとおり、市内の生産者や飲食店等と連携・協力して、地域の農産物や特産品等を使用した川崎ならではの魅力ある飲食・物販サービスを提供していきたいと考えております。具体的な提供内容等については、いただいた御意見を参考に検討を進めてまいります。</p>	C
15	<p>都市空間での緑化技術の展示（壁面緑化や屋上緑化など）とあったが、開催期間中にその完成形を訪れる方に見ていただくためには、植栽の成長も考慮して、開催時期の前から準備が必要である。</p>	<p>出展展示における植栽の準備につきましては、かわさきフェアの開催時期に間に合うよう、いただいた御意見を参考に必要な準備を進めてまいります。</p>	C
16	<p>多摩川の緑を、フェアの会場の一つとしてアピールするとあり、市民の方に再認識してもらうチャンスだと思う。</p> <p>沿線には何か所か多摩川緑地への入口があるが、車両等の進入路という位置づけのためか、アスファルト舗装と大きな車止めがあるくらいである。その入口にも、何か緑を予感させるような演出があればいいと思う。</p>	<p>かわさきフェアにおける、多摩川緑地での取組につきましては、本市としても、多摩川の持つ豊かな水やみどりといった魅力やそのポテンシャルを活かした取組を推進していきたいと考えております。</p> <p>具体的な内容については、いただいた御意見を参考に、管理者である国土交通省と協議しながら、検討を進めてまいります。</p>	C
17	<p>緑化フェアを楽しみにしている。</p> <p>川崎が、緑と水のまちになることは、昔からの市民の願いである。多くの方が緑に親しんで、健康で笑顔になるように期待している。</p> <p>子どもたちも、絵画や文章で関心を表現できるとよい。何より多くの方が直に緑に触れる機会があるとよい。未来に向けて、身近な植物だけでなく、カーボンファイバーや木造ビルの話など、取り上げていただきたい。</p> <p>また、古来から日本にある、竹や麻が見直されて、これからを切り拓く素材として研究が進んでいるので、どこかで紹介していただきたい。</p>	<p>かわさきフェアにおける出展展示等のプログラムにつきましては、P42の(2)出展展示に示すとおり、多様なみどりと、環境、教育、文化、歴史、農、福祉、先進技術等の各分野と連携して、川崎の多様性あふれる魅力や強みを感じる機会を創出するとともに、身近なみどりを体感し、暮らしの中にみどりを取り入れる楽しさや心地よさを感じる展示等のプログラムを展開していきたいと考えております。</p> <p>具体的な内容については、いただいた御意見を参考に検討を進めてまいります。</p>	C

18	<p>よく生田緑地を利用するが、休日は駐車場が混んでいて、車を停めるのに時間がかかるので、かわさきフェア開催時は臨時駐車場等確保してほしい。</p>	<p>生田緑地における、かわさきフェア開催中の交通対策につきましては、P45の(7)交通輸送に示すとおり、公共交通機関の利用促進とあわせて、来園者の増加等による駐車場及び周辺への影響を踏まえて、必要な交通対策を検討することとしており、具体的な手段については、いただいた御意見を参考に検討を進めてまいります。</p>	C
19	<p>全国都市緑化かわさきフェアの基本・実施計画策定にあたっては、都市と自然のつながりをテーマにした思考で次々に新しい空間を生みだし、国内外で高い評価を得ている建築家の藤本壮介さんをアドバイザーに迎えるとよいと思う。</p> <p>また、落合陽一さんが、12月13日に行われたTokyo Marunouchi Innovation Platform主催の都市とイノベーションをテーマとしたイベントで、公害を克服した都市に興味があると仰っていたので、フェアに関与して頂くべくアプローチされてみるといいと思う</p>	<p>かわさきフェアの基本・実施計画の策定に向けた推進体制につきましては、P46の6推進体制に示すとおり、令和4年度に、主催者、学識経験者、各分野の関係団体等により構成する実行委員会の設置を予定しております。構成員の選任にあたっては、フェアの目的や開催の意義を踏まえて検討を進めてまいります。</p>	D

3 その他の意見（2件）			
1	<p>武蔵小杉駅周辺から等々力緑地までのエリアにおいて、国道409号の小杉御殿町工区の区間と丸子中山茅ヶ崎線の小杉御殿工区により、新設バイパス道路が出来る区間の既存道路は狭く、歩道が未整備の道に多くの自動車や大型車両、路線バスが行き交う中で、多くの歩行者や自転車が交錯して非常に危険な状態である。直ちに行政代執行を行い、用地を取得して整備する必要がある。</p> <p>さらに、小杉御殿町工区については、早期完成に伴う通行環境整備は当然のこととして、街路樹などによる緑化を行い、等々力緑地に武蔵小杉駅から向かう市内外からの来訪者が魅了される、快適で美しく風格のある景観のまちなみを創出することを行ってほしい。</p>	<p>本市の幹線道路の整備につきましては、効率的・効果的な道路整備を推進していくため、平成28年度から令和7年度までの10年間（前期6年、後期4年）を計画期間とした「第2次川崎市道路整備プログラム」を定め、客観的な指標などを用いて整備効果の高い箇所を選定し、取組を進めているところです。</p> <p>現在取りまとめている第2次川崎市道路整備プログラム後期（令和4年度から令和7年度）の取組（案）におきましては、より一層の事業の重点化を図るため、後期における新規工区の事業着手を先送りにして、現在、事業中の工区へ予算を集中的に投資するとともに、土地収用等の積極的な活用を図り、早期完成を目指すこととしております。</p>	E
2	<p>まちのみどりの中でも、駅周辺の中心道路や幹線道路沿いなどの多くの人の目に触れる道路の緑は、「地域愛」を育む上でも、川崎市に対するイメージ形成の上でも重要だが、都市計画道路が整備中又は未整備の区間は、殺伐とした沿道景観となってしまう。</p> <p>事業中の区間は、用地取得や整備のピッチを上げて、開催年である2024年度までに完成させ、また、未整備の区間も、計画区間の早期の事業着手が展望できる状況になるよう、全国都市緑化かわさきフェア開催が、都市計画道路整備の加速化の契機になるよう事業を推進してほしい。</p>	<p>今後も引き続き、安全、安心、快適な交通環境の構築に向けた幹線道路の整備を推進してまいります。</p>	

1 全国都市緑化かわさきフェア基本構想

1 全国都市緑化フェアについて

全国都市緑化フェアは、都市緑化の意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、国、地方公共団体及び民間の協力による都市緑化を全国的に推進し、緑豊かな潤いある都市づくりに寄与するものです。



第33回横浜フェア
みなとガーデン（街中）



第36回信州フェア
県営松本平広域公園



全国都市緑化祭
（皇室による記念植樹）

2 全国都市緑化かわさきフェアについて

本市は、令和6（2024）年7月に市制100周年を迎えます。これまで本市では、110年ほど前から臨海部が埋め立てられ工業が発展するとともに、徐々に北部に向かって都市開発がされていく中で、多くの樹林地帯が失われ、それと引き換えに利便性の高い都市が生まれてきました。そして現在、川崎の持続的な発展を目指す上では、積極的にSDGsの達成や脱炭素社会の実現に寄与する取組を進めていく必要があり、この取組においても、みどりの果たす役割はとても重要です。これまでのみどりの歴史や強み等を振り返りながらみどりについて市民の皆さまと一緒に考え行動することで、新たなみどりの文化を醸成し、だれもが住み続けたいまちへとつなげていく、そのための大きなチャンスであると捉え、緑化フェアを本市で開催し、“川崎らしいみどり”を全国に向けて発信することとします。

開催意義

- 1 市民が暮らしの中で、積極的にみどりを取り入れるためのきっかけをつくること
- 2 みどりに関する機運を高め、市民の行動につなげていく契機とすること
- 3 市民の行動が新しい川崎のみどりの文化を育み、誰もが住み続けたいまちにつなげていくこと

基本理念

- I かわさきフェアは、「みどりを持つ力を、未来の川崎に向けて、**みんなが暮らしの中で上手に活用する取組**」を推進します。
- II 川崎の**多様な人・暮らし・みどりを結びつける**ことで、**フェア終了後も続く「みどりのムーブメント」**を推進します。
- III かわさきフェアのレガシーとなる地域愛を持った市民が、**次の100年に向けて、川崎らしくより豊かな環境をつないでいきます。**

コンセプト

Green For All！でみどりのムーブメントを起こします

みどりは、すべての人に等しく存在し、まちづくりや暮らしのすべての場面で多様な効果を発揮します。

2 かわさきフェアを契機とした みどりのまちづくり に向けた取組

1 みどりのまちづくりに向けて

- ・緑には、環境、レクリエーション、防災などの主要な機能や効果がある他、自然環境教育、観光、産業振興、健康福祉等の場としての多様なポテンシャルがあります。
- ・多発する自然災害や新型コロナウイルス感染症の拡大の影響などにより社会状況が大きく変化する中で、緑とオープンスペースにおいては、従来のコミュニティ活動の場やグリーンインフラ、健康的に過ごせる場としてだけでなく、テレワーカーの作業場所やフィットネス利用、キッチンカーの配置による賑わいの創出など、利用形態の多様化や柔軟な活用に対するニーズが高まっています。
- ・こうしたことから、緑を取り巻く社会状況の変化や市民ニーズの多様化に柔軟に対応しながら、**みどりが持つ多様なポテンシャルを、川崎の共有の財産として認識するとともに、その効果が実感でき、人々が暮らしやすく住み続けたいまちとするため、市民や企業、行政などの多様な主体が将来像を共有しながら、みどりのまちづくりに取り組んでいくことが重要**です。

2 取組姿勢・目指すべき将来像

- ・昨今の社会状況の変化等を踏まえ、かわさきフェアを契機として、**みどりが持つポテンシャルを最大限に活用して、誰もが心豊かな暮らし（ウェルビーイング）を実現し、住み続けたいと思われ続けるようなまちをつくる**ため、目指すべき将来像を設定します。
- ・その将来像の実現を目指し、**かわさきフェア開催以降にもつながる様々な取組を、かわさきフェア開催前から展開**していきます。

【目指すべき将来像】

みどりでつなげる、暮らしやすく住み続けたいまち

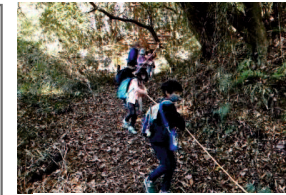
3 取組方針

- ・目指すべき将来像の実現に向けて、かわさきフェア開催の基本理念を踏まえた将来に向けた取組方針を設定し、取組を進めます。

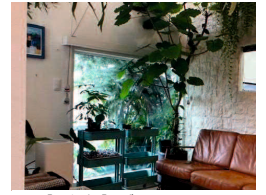
【基本理念Ⅰ】 かわさきフェアは、「みどりが持つ力を、未来の川崎に向けて、みんなが暮らしの中で上手に活用する取組」を推進します。
～ 100年先の笑顔のために、持続可能で最先端の都市緑化の推進 ～

取組方針

- ・みんなが**生き生きと居心地よく活動できる空間の創出**、質の高い**みどりを取り入れる仕掛けづくり**を行うとともに、グリーンインフラの取組が推進できるよう、**生物多様性の保全等に配慮し、地域の特性に応じたみどりの適正な保全、創出、育成及び活用**を進めます。
- ・次の**100年も、川崎に住みたい、暮らしたいと思われよう**、社会状況の変化や市民の多様なニーズに対応しながら、**最先端の技術が集積する川崎ならではの都市緑化を推進**します。



【取組例】生き生きと活動できる空間の創出



【取組例】みどりを取り入れる仕掛けづくり

【基本理念Ⅱ】 川崎の多様な人・暮らし・みどりを結びつけることで、フェア終了後も続く「みどりのムーブメント」を推進します。
～ みどりが持つ力で、誰もがオープンにつながり、様々なイノベーションを起こす社会モデルの構築 ～

取組方針

- ・市民、企業等あらゆる主体が**自由に参加し、協働・共創**で、それぞれの持つ独自の技術や柔軟なアイデア、ノウハウ、知識などを組み合わせることにより、**川崎のみどりの新たな価値を生み出す仕組みを構築し、全市民のみどりのムーブメントにつなげていきます。**



【取組例】あらゆる主体が自由に参加する協働・共創の取組



<協働・共創の取組イメージ>

【基本理念Ⅲ】 かわさきフェアのレガシーとなる地域愛を持った市民が、次の100年に向けて、川崎らしくより豊かな環境をつないでいきます。
～ 誰もが生きる喜び、幸せを感じられる多様な文化あふれる文化の創出 ～

取組方針

- ・地域の愛着を高め、**市民一人ひとりが生きがいを持って活躍できる**といった、**川崎らしい多様な文化あふれる文化の創出**につながる取組を推進します。
- ・みどりの**多様な効果**をできる限り見える化し、**わかりやすく普及啓発**することで、**みどりを大切に**する豊かな心を育む取組を推進します。



【取組例】みどりの効果を知りやすく普及啓発



【取組例】みどりを大切にする豊かな心を育む取組

全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子【概要版】

3 全国都市緑化かわさきフェア 行行事等計画（骨子）

1 コンセプト・基本方針

- ・かわさきフェアでは、**みどりが持つポテンシャルを効果的に活用し、これまで培ってきた川崎の強みや各地域の特色を活かしながら、各分野の取組と連携して、多様な主体がつながり、行動するきっかけとする市民総参加型のフェアとなるよう、取組を展開していきます。**
- ・そのため、開催意義、基本理念、取組方針に加え、国土交通省が平成25（2013）年度に提案した「これからの全国都市緑化フェアに求められる役割」を踏まえ、次のとおり、かわさきフェアの基本方針を設定しました。

【コンセプト】 Green For All！ みどりのムーブメントを起こします

かわさきの多様なみどりの“力”を感じるフェア	先端技術で新たな都市緑化の“形”をつくるフェア	多様なみどりでつながる“行動”を生み出すフェア	環境・社会・経済的価値を同時に実現できる“社会”を示すフェア	かわさきらしい多様なあふれる“文化”を育むフェア
生物多様性や都市が抱える様々な課題の解決につながるグリーンインフラの持つ多様な機能や効果の発信など	フェアを通じて、川崎の持つ最先端の技術、アイデアによる新しい都市緑化の実現 など	多様な主体がつながり、フェア開催後も、みどりの新たな価値を生み出していく仕組みづくり など	川崎の強み（自然環境、先端技術、観光資源など）を活かして、SDGsの達成や脱炭素社会の実現に向けた、みどりが持つ多様なポテンシャルの発信 など	地域への愛着を持った市民一人ひとりが、暮らしの中でみどりと関わりながら、地域性あふれる多様な文化を育む機会の創出 など

2 基本的事項

- **名称** 第41回 全国都市緑化かわさきフェア
- **主催者等** 主催者：川崎市、公益財団法人都市緑化機構
実施主体：かわさきフェアの実行組織として実行委員会を設立
- **開催期間** 地域資源を活かした個性的な取組を全市的に展開しているため、木や花の見頃などを踏まえて、次のとおり、秋、春の季節ごとに開催期間を設定しました。
令和6年10月中旬～11月上旬（20日間程度）／令和7年3月上旬～3月下旬（30日間程度）
- **会場** コア会場：富士見公園、等々力緑地、生田緑地
協賛・連携会場等：駅、商業施設、民有空地、区役所、緑化推進重点地区、公園緑地、バーチャル会場 など
- **入場者規模、概算事業費、愛称・シンボルマーク** 基本・実施計画において決定

3 会場構成等

- **会場設定の考え方**
 - ・地域ごとに様々な顔を持つ川崎の多様なみどりを活用する取組を全市的に展開
 - ・それぞれの地域の特色ある取組を相互に連携することで、市内全体で一体感を生み出す。
- **コア会場** 市内の南・中・北部それぞれに立地する総合公園をコア会場とする。

【南部】富士見公園…緑とスポーツ・文化・レクリエーションの拠点

- ・川崎の多様性や先進性あふれる様々な取組を発信する企画展示や市民のライフスタイルに溶け込んだ公園の新しい使い方を体感できるプログラムを展開
- ・富士見公園周辺の施設との連携を図り、各施設の特徴を活かした企画展示、体験型プログラムなどを展開
- ・市民・地域の団体等が日頃取り組んできた成果を発信する市民発信型のプログラムを展開

【中部】等々力緑地…スポーツの聖地・緑と水の拠点

- ・多彩なスポーツと緑、水を活かした様々な体験型プログラムなどを展開
- ・多様な主体とコラボレーションしながら、豊かな自然や水辺環境等を知り、学び、体感できる取組を展開

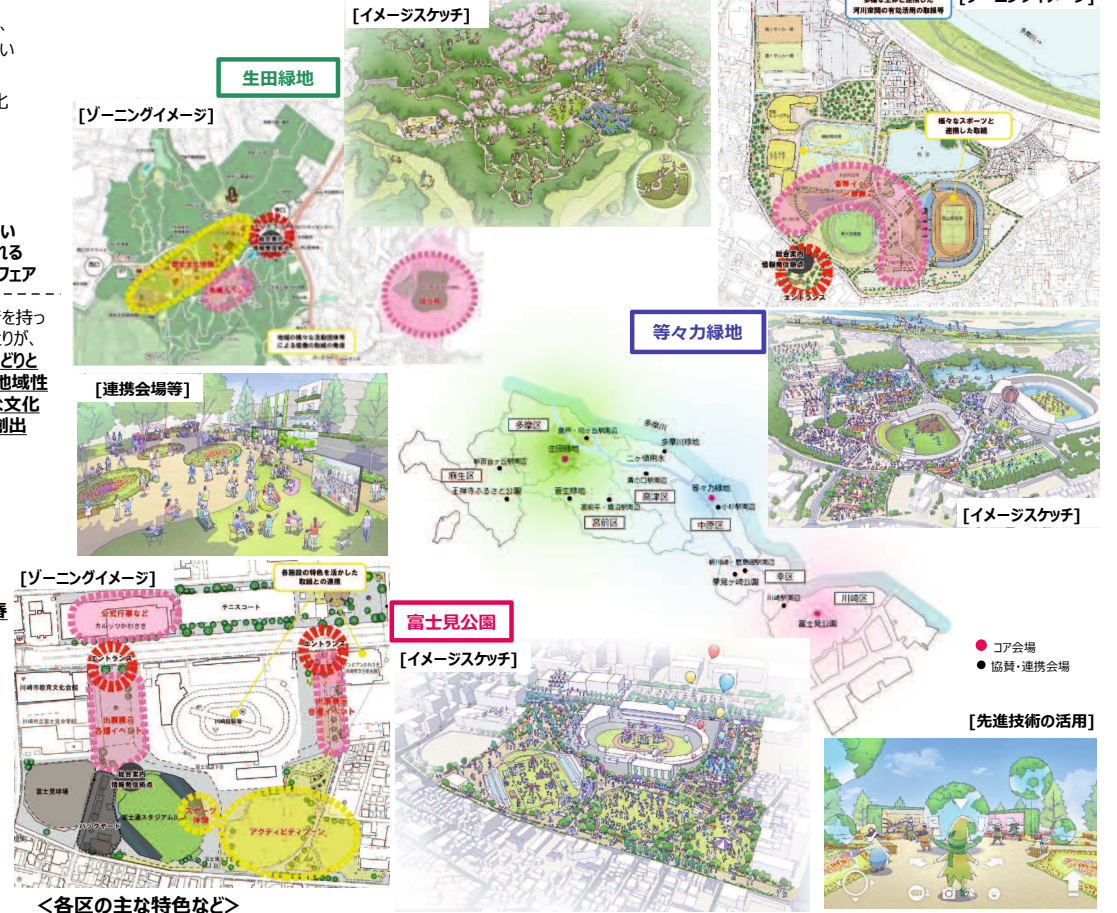
【北部】生田緑地…豊かな自然と歴史・文化・芸術の拠点

- ・市民協働の取組を全国に発信するとともに、大学等と連携し、環境教育や保全活動等の体験学習プログラムを通じて、協働の担い手の育成につながる取組を展開します。
- ・ばら苑などの豊かな自然環境や、歴史・文化・芸術といった魅力に触れ、感じることでできるプログラムを展開

● 協賛・連携会場等

- ・みどりとオープンスペースを効果的に活用して、多様な主体と協働・連携した取組を市内全域で展開
- ・公共空間と駅、商業施設、民有空地等を一体的に活用して、市民、企業、行政等の協働・共創による先進的な取組を発信
- ・市民一人ひとりがそれぞれの暮らしの中でみどりと関わりを持ち、みどりに親しみ、その効果を実感できる取組を展開
- ・先進技術を活用し、誰もがかわさきフェアを体感し、参加できる仕掛けを検討

【各会場における展開イメージ】



<各区の主な特色など>

区	主な特色	主な協賛・連携会場イメージ
川崎	・富士見公園を拠点としたまちの賑わい創出に寄与するまちづくり ・臨海部の魅力的なロケーションを活用した交流と賑わいの創出	川崎駅周辺、臨海部（キングスカイフロントなど） 他
幸	・御幸公園における梅香事業の推進による地域の魅力創出 ・夢見ヶ崎公園を活用した賑わいの創出、地域コミュニティ形成	新川崎・鹿島駅周辺、川崎駅西口、御幸公園、夢見ヶ崎公園 他
中原	・小杉駅周辺の公共空間を活用した居心地がよく住みやすいまちづくり ・等々力緑地におけるパークマネジメントの推進によるまちの賑わい創出	小杉駅周辺、多摩川緑地、特色ある商店街（プレーメン通り） 他
高津	・多摩川や二ヶ領用水、橋樹官衛遺跡群など、緑、水辺と一体となった魅力的なまちづくり ・地域資源を活用した持続可能な地域社会（エコシティ）の形成	溝の口駅周辺、多摩川緑地、二ヶ領用水、橋樹官衛遺跡群 他
宮前	・生田緑地を拠点とした豊かな自然と歴史・文化・芸術の魅力を活かしたまちづくり ・歴史的遺産や農といった地域資源を活用し、緑と水と一体となった魅力的なまちづくり	宮前平・鷺沼駅周辺、菅生緑地、野川・有馬などの植木、平瀬川 他
多摩	・生田緑地を拠点とした豊かな自然と歴史・文化・芸術の魅力を活かしたまちづくり ・里地里山の保全や豊かな自然資源を活用した交流、賑わいの創出	登戸・向ヶ丘遊園駅周辺、多摩川緑地、緑化センター 他
麻生	・保全緑地における保全と利活用の取組による子どもたちがのびのびと自然にふれあひ成長できる空間づくり ・農ある風景の保全と農家・市民と連携した地域農業の振興による魅力的なまちづくり	新百合ヶ丘駅周辺、王禅寺ふるさと公園、王禅寺四ツ田緑地、黒川・早野・岡上などの里地里山・農地 他

全国都市緑化かわさきフェア基本計画骨子【概要版】

3 全国都市緑化かわさきフェア 行催事等計画（骨子）

4 事業計画

<p>協働推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これまでの市民協働の取組も大切にしなが、地域の団体と、子どもたちや若者が出会い、新たなつながりを生み出します。 ●企業、地域の団体等を巻き込み、フェア開催以降につながる新たな協働、共創による仕組みの構築につなげていきます。 	<p>展開イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境教育や自然体験、農とふれあ体験学習プログラムなどの機会を通して、市民や地域の様々な団体等と一緒に体験し、楽しみながら、新たな交流を生み出す場の提供 ●SNSやアプリなどのICTを活用した、市民、地域の活動団体、商店街、民間企業、教育機関、行政などが互いにつながることで、フェア終了後も活動を継続・発展していくことができる持続可能な協働・共創の仕組みづくり等  <p>(例) 子どもたちによるかわさきフェアに向けた花苗の育成</p>	<p>広報宣伝</p> <ul style="list-style-type: none"> ●川崎の多様性や魅力を全国に発信するとともに、すべての世代に幅広く浸透させるため、フェア開催前から広報を展開し、機運を高めます。 	<p>展開イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の様々な情報媒体やSNS等の活用による戦略的な広報 ●地域愛の醸成につながる農産物や特産品等を活用した川崎の魅力の発信 ●会場の一体感を高めるため、市内全域で展開される取組や活動のリアルタイム情報の発信等  <p>(例) SNSを活用した広報宣伝 (出典：富山市 amazing_toyama)</p>
<p>出展展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多様なみどりを活用し、様々な分野の取組と連携して、先進技術等の手法も駆使しながら、本市の魅力や強みを発信する取組を展開します。 ●市民の日常生活に溶け込んだ、身近なみどりの魅力を体感できるような企画展示を展開します。 	<p>展開イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多様なみどりや環境、教育、文化、歴史、農、福祉、先進技術、観光等の各分野と連携した川崎の多様なあふれる魅力や強みを感じる機会の創出 ●身近なみどりの魅力を体感し、暮らしの中にみどりを取り入れる楽しさ、心地よさを感じる展示等  <p>(例) 川崎市出展花壇（第36回信州フェア）</p>	<p>植物調達</p> <ul style="list-style-type: none"> ●行催事や出展展示等において使用する花き・植物について、市場への影響にも考慮した植物調達体制を構築します。 ●地域で生産されている花き・植物を積極的に活用することで、認知度とブランド力を高め、フェア終了後も需要が持続する取組を検討します。 	<p>展開イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の生産者、造園業者や教育機関、企業等と連携・協力した計画的かつ安定的な生産・供給体制の構築 ●フェア終了後の持続的な花き・植物需要の創出に向けた方策の検討（花苗→枯れた後の堆肥化→新たな花苗への施肥のようなモデル等の展開）等  <p>(例) ロスフラワー活用</p>
<p>行催事</p> <ul style="list-style-type: none"> ●既存イベントや地域の取組と連携した市民発信型の行催事をフェア開催前から展開します。 ●多様なみどりや水などの特色ある自然の魅力を知り、体感できる取組を推進します。 ●これまでの100年で培ってきた川崎の魅力や強みを発信します。 ●市制100周年に合わせた記念事業などと連携した取組を推進します。 	<p>展開イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民、企業等が主体となったこれまでの取組の成果を発信する、コンクール、シンポジウムなどの開催 ●市内の各会場を回遊し、各会場の魅力を体感するプログラムの展開 ●市民、企業等とともに盛り上げ、川崎の多様なあふれる魅力や強みを市内、全国に発信するための公式行事の実施等  <p>(例) わがまち花と緑のコンクール</p>	<p>交通輸送</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公共交通機関の利用を前提としつつ、多様な交通手段と連携し、来場者の円滑な輸送手段を確保し、市内各会場間の回遊性の向上を図ります。 ●環境に配慮した交通輸送を展開します。 	<p>展開イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●先進技術（MaaS等）の積極的な活用の検討 ●利便性が高く市内各会場への移動が楽しくなる仕掛けの検討 ●既存の公共交通機関の利用促進及び交通量増加等による周辺への影響を踏まえた交通対策の実施 ●温室効果ガスの抑制など交通輸送時の環境負荷低減に向けた輸送計画の検討等  <p>(例) 「しんゆりMaaS」実証実験 (出典：小田急電鉄より)</p>
<p>会場運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民、地域の活動団体、NPO、学校、企業等の多様な主体と連携・協働した運営手法を導入し、環境や安全面に配慮するとともに、誰もが快適に参加できるような適切な会場運営を行います。 	<p>展開イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多様な主体との連携・協働体制の構築による市民総参加型の会場運営 ●市内の企業、団体等の参画促進のための多様な協賛形態の構築、募集の実施 ●既存施設の効果的な活用など、環境に配慮した会場整備 ●AIを用いた人流分析、評価による混雑対策の検討等  <p>(例) 多様な主体との連携・協働による会場運営</p>	<p>飲食・物販</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生産者や飲食店等と連携・協力して、地域の農産物や特産品等を使用した川崎ならではの魅力ある飲食・物販サービスを提供します。 ●衛生や環境面に配慮したサービスを提供します。 	<p>展開イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生産者や飲食店、民間事業者等と連携した川崎の特産品の提供 ●農産物等を使用した川崎ならではの食文化の発信につながるご当地グルメ等の提供 ●感染症対策の徹底や食品ロス対策、容器のリユース・リサイクルなどの取組の推進 ●地域の商店街や飲食店等をめぐりながら川崎の食の魅力を体感できるプログラムの提供等  <p>(例) 市内農産物を活かした食の提供</p>

5 推進体制

<p>ア 実行委員会の設置</p> <p>かわさきフェアの円滑な事業推進や市制100周年に合わせて行われる記念事業などの連携を目的に、主催者、学識経験者、各分野の関係団体等により構成する実行委員会を設置します。</p>
<p>イ 実行委員会幹事会（事務局）の設置</p> <p>かわさきフェアの実施にあたり、実行委員会の事務処理等を行うため、市制100周年に合わせて行われる記念事業などの連携を踏まえて、実行委員会事務局を設置します。</p>

6 スケジュール

・令和3（2021）年度に策定する基本計画骨子を踏まえ、令和4（2022）年度に設置する実行委員会において基本・実施計画を策定し、かわさきフェア開催に向けた取組を推進します。

